

ブラーフイー語動詞「死ぬ」の現世界

村山和之

— 要旨

本研究ノートは、パキスタン・パローチスターン州に集住するパローチ人とともにパローチ民族を形成するブラーフイー人の言語「ブラーフイー語」研究のネタバレ紹介である。

著者は、フィールドワークの日常的な一コマから「死ぬ」という動詞と対峙し、その用法を確かめるうちに、偶然にも『語彙の発見と修正—ブラーフイー語の忘れられつつある語彙の研究試論』という書を知り、その著者からも直接講義を受け、「死ぬ」を意味する動詞とその類義語がもつ広いフィールドを再考せざるを得なくなる。その結果、かつて自ら訳出した殉死した戦士たちを讃えるブラーフイー語詩歌を「死ぬ」という言葉を意識して再読する。

理論的な考察が一切なされていない研究ノートであり、著者のフィールド・メモに過ぎない清書前のノートだが、今後徐々に展開し発表してゆくブラーフイー語とその文化研究の序幕としては、手前味噌ながら意義があると自負するものである。

はじめに

本稿は、ブラーフイー人の言語ブラーフイー語とその言語文化をめぐる研究ノートである。

ブラーフイー語とは、パキスタン南西部、アフガニスタン南東部そしてイラン南東部にかけて国境をまたいで分布するパローチ民族の言語である。さらにパローチ民族を構成するパローチ人とブラーフイー人の二大部族集団のうち、後者が母語とする言語である。

筆者は1989年に初めてパキスタン・パローチスターン州を訪問して以来、1992年から95年までのパローチスターン大学文学部言語学科ブラーフイー語修士留学を経て、いまもなおこのブラーフイー語を母語とするブラーフイー人の言語文化と民俗文化を学んでいる。

しかし、ブラーフイー語を学んだ動機が民謡理解の手段であったことと、自分自身は言語学研究の人間ではないことが相まって、ブラーフイー語自体を語る言葉が見つげ出せぬまま、きちんとした発表もせぬまま20年がたってしまった。

この研究ノートは、遅すぎた発表を悔いながらも、まだ途上にあるブラーフイー語とブラーフイー文化研究上の興味点を整理し、今後の進展に結びつけるために書き留めたネタバレのようなものである。

第1章 ブラフイー語のかたち

1.1 ブラフイー語とは

まず、ブラフイー語 Brahui についての短い紹介を試みる。

流布地域は、パキスタンのバローチスタン州中央ブラフイー山脈を中心として、インド州中北部、アフガニスタン南東部、イラン南東部におよぶ。ブラフイー人の母語として、また一部のバローチ人の運用言語として健在である。

イラン語派のバローチー語に関しては、イラン言語学者の縄田鉄男が『バローチー語基礎 1500 語』（1988 年、大学書林）という形を残してくれたが、ブラフイー語に関する記述は日本ではほぼ皆無である。

『南アジアを知る事典』によれば、ブラフイー語とはドラヴィダ語族の北部ドラヴィダ語派に分類される言語であり、インド・イラン語派に囲まれた言語島であることから、大量の借用語の流入に加え、動詞接頭辞、代名接尾辞の存在や性範疇の喪失など、さまざまな影響を受け、本来のドラヴィダ語からは著しく変貌している [家本] 言語であるという。

ブラフイー語研究の三大功労者は、古い順にブレイ D. Bray (図 1)、エメノー M. Emeneau そしてエルフェンバイン J. Elfenbein であるが、『イラン百科事典』にみられるエルフェンバインによる記述 [Elfenbein:439] が、ブレイとエメノーの成果を踏まえて、現在もっとも信頼に値する総合的な情報を提供してくれる。彼もブラフイー語と北部ドラヴィダ諸語の関係は、ほぼ立証されているという立場をとり、これらは三本の等語線に基づいている⁽¹⁾とされる。

ブラフイー語の母音は、短母音 3、長母音 5 として二重母音 2 からなる⁽²⁾。子音は、28 個を数える。この数はバローチー語のストックそのままに、ブラフイー語に顕著な一子音 *lh* (摩擦無声側音) を加えたものとなる。語順は日本語と同じで、膠着語の形態をとる。

1.2. ブラフイー語の動詞活用

本稿では品詞の中で動詞が問題となるため、ブレイ [Bray, Vol. I:136-7] とエルフェンバイン [Elfenbein, 441-442] が提示した動詞活用表を参照用にここに引用したい。ブラフイー語動詞の不定形は、語幹にイング *-ing* が伴った形であられる。

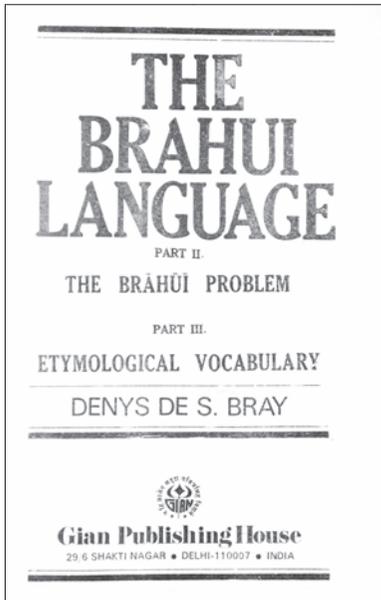


図 1 D.ブレイの『ブラフイー語』

1.2.a 連辞（コピュラ動詞）anning (to be) の例

1.2.a. Bray

		肯定形		否定形	
		単数形	複数形	単数形	複数形
現在形	一人称	ut (am)	un	affat (am not)	affan
	二人称	us	ure	affes	affere
	三人称	e	o	aff, affak	affas
過去形	一人称	assut (was)	assun	allavat (was not)	allavan
	二人称	assus	assure	allaves	allavere
	三人称	ass	assur, asso	allau	allavas

[Bray, Vol. I: 118, 150-153]

1.2.a. Elfenbein

		肯定形		否定形	
		単数形	複数形	単数形	複数形
現在形	一人称	ut (am)	un	affat (am not)	affan
	二人称	us	ure	affes	affere
	三人称	e	o	affak	affas
過去形	一人称	assut (was)	assun	allawat (was not)	allawan
	二人称	assus	assure	llawes	allawere
	三人称	ass	assur	allaw	allaws

1.2.b 規則動詞 tikhing (to place), tixing (to put) の例

1.2.b. Bray

		肯定形		否定形	
		単数形	複数形	単数形	複数形
B1. 命令形					
	二人称	tikh (put!)	tikhbo	tikhpa	tikhpabo

B2. 現在進行形

一人称	tikhingati ut (I am placing)	tikhingati un	tikhingati affat	tikhingati affan
二人称	tikhingati us	tikhingati ure	tikhingati affas	tikhingati affere
三人称	tikhingati e	tikhingati o	tikhingati aff	tikhingati affas

B3. 現在不確定形

一人称	tikhiv (I may place)	tikhin	tikhpar	tikhpan
二人称	tikhis	tikhire	tikhpes	tikhpere
三人称	tikhe	tikhir	tikhp	tikhpas

B4.現在形

一人称	tikhiva (I place, I will place)	tikhina	tikhpara	tikhpana
二人称	tikhisa	tikhire	tikhpesa	tikhpere
三人称	tikhik	tikhira	tikhpak	tikhpasa

B5.未来形

一人称	tikhot (I probably place)	tikhoun	tikhparot	tikhparon
二人称	tikhos	tikhore	tikhparos	tikhparore
三人称	tikhoe	tikhor	tikhparoe	tikhparor

B6.假定形

一人称	tikhost (had I place)	tikhosun	tikhparosut	tikhparosun
二人称	tikhosus	tikhosure	tikhparosus	tikhparosre
三人称	tikhosas	tikhosur	tikhparosas	tikhparosur

B7.過去形

一人称	tikhat (I placed)	tikhan	tikhtavat (I did not put)	tikhtavan
二人称	tikhas	tikhare	tikhtaves	tikhtavere
三人称	tikha	tikhar	tikhtau	tikhtavas

B8.過去未完了(進行)形

一人称	tikhata (I was placing)	tikhana	tikhtavata	tikhtavana
二人称	tikhasa	tikhare	tikhtavesa	tikhtavere
三人称	tikhaka	tikhara	tikhtavaka	tikhtavasa

B9.現在完了形

一人称	tikhanut (I have placed)	tikhanun	tikhtanut	tikhtanun
二人称	tikhanus	tikhanure	tikhtanus	tikhtanure
三人称	tikhane	tikhano	tikhtane	tikhtano

B10.過去完了形

一人称	tikhasut (I had placed)	tikhasun	tikhtavesut	tikhtavesun
二人称	tikhasus	tikhasure	tikhtavesus	tikhtavesure
三人称	tikhasas	tikhasur	tikhtavesas	tikhtavesur

[Bray, Vol.I:136-37,148-149]

1.2.b. Elfenbein

肯定形

单数形

否定形

单数形

複数形

複数形

E1.命令形

二人称	tix (put!)	tixbo	tixpa	tixpabo
E2.現在形				
一人称	tixiw (I put)	tixin	tixpar	tixpan
二人称	tixis	tixire	tixpes	tixpere
三人称	tixe	tixi	tixp	tixpas
E3.現在未完了（進行）形				
一人称	atixiwa (I am putting)	atixina	tixpara	tixpana
二人称	atixisa	atixire	tixpesa	tixpere
三人称	atixik	atixira	tixpak	tixpasa
E4.未来形				
一人称	tixot (I shall put)	tixona	tixparot	tixparon
二人称	tixos	tixore	tixparos	tixparore
三人称	tixoe	tixor	tixparoe	tixparor
E5.假定形				
一人称	tixost (had I put)	tixosun	tixparosut	tixparosun
二人称	tixosus	tixosure	tixparosus	tixparosre
三人称	tixosas	tixosur	tixparosas	tixparosur
E6.過去形				
一人称	tixat (I put)	tixan	tixtawat	tixtawan
二人称	tixas	tixare	tixtawes	tixtawere
三人称	tixa	tixar	tixtaw	tixtawar
E7.過去未完了（進行）形				
一人称	atixata (I was putting)	atixana	tixtawata	tixtawana
二人称	atixasa	atixare	tixtawesa	tixtawere
三人称	atixaka	atixara	tixtawaka	tixtawasa
E8.現在完了形				
一人称	tixanut (I have put)	tixanun	tixtanut	tixtanun
二人称	tixanus	tixanure	tixtanus	tixtanure
三人称	tixane	tixano	tixtane	tixtano
E9.現在完了進行形				
一人称	atixanuta (I have been putting)	atixanuna	tixtanuta	tixtanuna
二人称	atixanusa	atixanure	tixtanusa	tixtanure
三人称	atixane	atixano	tixtane	tixtano
E10.過去完了形				
一人称	tixasut (I had put)	tixasun	tixtawesut	tixtawesun

二人称	tixasus	tixasure	tixtawesus	tixtawesure
三人称	tixasas	tixasun	tixtawesas	tixtawesur
E11.過去完了進行形				
一人称	atixasuta	atixasuna	tixtawesuta	tixtawesuna
	(I had been putting)			
二人称	atixasusa	atixasure	tixtawesusa	tixtawesure
三人称	atixasasa	atixasuna	tixtawesasa	tixtawesura

[Elfenbein, 441-2]

1.2.c プレイ文法とエルフェンバイン文法

一見してエルフェンバインのこの動詞活用表には、プレイが最初に記述した活用とは異なる語法の記述がみられる。その詳細な分析と報告がこの紙面での目的ではないので、短く指摘する程度にとどめる。

両者の大きな相違点は、便宜上日本語で進行形とおいた語法においてまず現れる。

現在進行形を、プレイは Present of Actuality (I am in the act of placing) (B2.) そして、エルフェンバインは Present imperfective (I am putting) (E3.) としている。両者の例文を同じ一人称～三人称までの肯定形の活用形で比較してみよう。

		一人称	二人称	三人称
プレイ	単数	tikhingati ut	tikhingati us	tikhingati e
	複数	tikhingati un	tikhingati ure	tikhingati o
エルフェンバイン	単数	atixiwa	atixisa	atixik
	複数	atixina	atixire	atixira

tikhing と tixing の表記法の時代差は問題外としても、違いは明らかだ。プレイの現在進行形は、動詞の不定詞に位置格として英語の in そして into に相当する「-ati」を付与し、コピュラ動詞の現在形を添えて作られる。

それに対してエルフェンバインは、語根に人称語尾-iwa、-isa、-ik を結合させ、接頭辞 a を添えた形を提示する。これは、三人称単数を除けば、現在形 Present perfective(E2.)に接頭辞 a と人称語尾 a をつけたものだ。

さらに、過去進行形 Past imperfective (E7.)や現在完了進行形 Perfect imperfective (E9.)、過去完了進行形 Pluperfect imperfective (E11.)といった、「進行形」かつ「肯定形」の時にだけ接頭辞 a を伴った活用がみられる。

接頭辞を用いて進行形を表す語法は、プレイの著書には見られず、筆者のブラーフイー語学習時も現在も聞いたことがなかった。現代ブラーフイー語の乱れた話し言葉として、-ati を省略する傾向は現地で確認できたが、エルフェンバインの記した活用はまだ確認できていない。今後の確認課題になろう。

第二の相違点は、現在形のとらえ方である。

ブレイが B3.現在不確定 Present Indefinite と B4.現在-未来 Present-Future そして B5.推定未来 Probable Future と三タイプに分類したのに対して、エルフェンバインは E2.現在 Present perfective、E3.現在未完了（進行） Present imperfective の二タイプに分類している。

筆者の所見では、単なる現在形の場合はブレイの用法が一般的に使われているように見て取れた。つまり、B4.の用法である。E2 は現在形としてよりも B3.にあるとおり現在不確定形として用いられているといえる。

まる四年間をシヴィルサービスの役人としてパローチスターン（当時はパルチスターン）に生活し、ブラーフイー語の研究に専念できたブレイの成果の方が、現在でもなお健在であり有用であるのは不思議だ。

一方でエルフェンバインは、70～80年代にかけてクエッタのパローチスターン大学の統計学科の教官を務めながらパローチ語とパローチ文学を学び、研究活動を営んだユダヤ系英国人であった。

彼は学科内の政治紛争に巻き込まれ、英国での休暇を終えて大学に戻った時に、スパイの嫌疑をかけられて大学を追放されてしまう。その後は母国で執筆活動に集中し、二度とパローチスターンの土こそ踏むことはなかったが、パローチ語そして文学の見識にかけては、外国人としては世界一の学者だといってよい。

ところが、ブラーフイー語に関しては、いくつかの論考を発表している彼だが、彼がブラーフイー語を研究していたという話は、いまだ聞いたことがないのだ。

当時、パローチスターン大学にはアブドゥッラー・ジャー・ジャマルディーニ教授 Abdullah Jan Jamaladini、ミール・アキール・ハーン・メーンガル教授 Mir Aqil Khan Mengal といった傑出したパローチ語とパローチ文学の学者たちがいた。ブラーフイー語ではナーディル・カンバラニー教授 Nadir Qambarani、そして在野の歴史学者としてミール・アーガー・ナスィール・ハーン・アフマドザイ氏 Mir Agha Nasir Khan Ahmadzai がいた。四人ともパローチ語もブラーフイー語も完璧に操ることができる学者たちであった。

この恵まれた環境の中で、パローチ語に関してエルフェンバインは最強の助っ人たちに支えられていた。しかし、ブラーフイー語まではどうであったのだろうか。わが母校パローチスターン大学に籍を置いたという共通点だけからも、筆者はエルフェンバインのブラーフイー語研究の有無と成果を知りたいと強く感じている。

第2章 ブラーフイー語動詞の類語について

2.1 「死ぬ」という動詞への疑問

2015年8月、一年半ぶりに訪ねた母校パローチスターン大学ブラーフイー語学科長の部屋で、ある老研究者が2年前に亡くなっていたことを知らされた。その人物とは前述したミール・アーガー・ナスィール・ハーン・アフマドザイ氏。和光大学の招きで1995年に

来日したこともあり、バローチ民族とバローチスターンの歴史や言語に関して独自の見解を語れる唯一無比の知識人だった。

老齢であったし衰弱気味なのは知っていたから、残念ではあるが大きな驚きはなかった。

それ以上に気になったのが、学科長ハージー・アブドゥル・ハリーム・サーディク・スマルザイ Haji Abdul Haleem Sadiq Smallzai 先生との会話だった。彼はブラーフイー語がほぼ完璧に操れるが、母語はバローチ語であるマルチリンガルだ。以下はブラーフイー語でのやり取りである。

- M1. 村山 アーガー・ナスィール・ハーンはお元気ですか？
Agha Nasir Khan amar e? (アーガー・ナスィール・ハーン アマル エー)
- S1. 先生 彼は死んだ
O kask (オー カスク)
- M2. 村山 いつ亡くなったのですか？
O chiva kask? (オー チヴァ カスク)
- S2. 先生 二年前だ
Iraa saal must. (イラー サール ムスト)

文法的にはまったく申し分のない教科書的ブラーフイー語の交換である。

しかし違和感が残った。故人は学科長にとっても筆者にとっても、大先輩で大恩人である。その故人の死に対して、単純に「死んだ」という表現しかないのだろうか？ 日本語ほどではなくとも、死の状況や故人との距離に応じた敬語表現を使うべきではなかったかという疑問が生まれた。

もちろん筆者のブラーフイー語運用能力を慮って、学科長は最も理解しやすい一般動詞を用いてくれたという推測が成り立つ。

一方で、「ブラーフイー語には敬語表現はない」と留学時代に教えてくれた故ナーディル・カンバラニー教授の言葉も蘇ってきた。

確かにペルシア語やウルドゥー語とは異なり、ブラーフイー語でもバローチ語でも、隣接するアフガニスタンのパシュトー語でも、実際の二人称・三人称単数に対して、敬語の意味を持たせるために二人称・三人称複数形を慣例的に使うことはない。

例えば「あなた」という時に、英語の you に対応してウルドゥー語では aap (アープ)、ペルシア語では shomaa (ショマー) 等の二人称複数形を用いるが、ブラーフイー語では英語の thou に対応する二人称単数形 ni (ニー) を使う。年長者や先生に対してもニーでよいのだ。

ここでは、三人称単数「彼」「彼女」「それ」を複数形に用いて敬語表現にできるのか？ ウルドゥー語やヒンディー語では是であるが、ブラーフイー語では確認したことがない。

単数: O kask (オー カスク) に対して複数: ofk kaskr (オーフク カスクル) で、後者に敬

語の意味合いはないのだ。

では、主語ではなく述語の選択によって、具体的には「死ぬ」を意味するいくつかの動詞表現の中から意図的に選んで敬語表現を満たしているのだろうか。もしそうだとすると、そんなにたくさん「死ぬ」という動詞がブラーフイー語にはあるのだろうか？

筆者には「死ぬ (カヒング kahing)」と「この世から離れる (ドゥニヤーガン ヒニング duniyaghan hining)」そして「殉死する (シャヒード マンニング shahid manning)」くらいしか思いつかなかった。

ところが、学科長室の隣のリアークト・サニー准教授 Dr.Liaqat Sani (図2) の部屋を訪ねると、その疑問に答えてくれる研究成果を本人が教えてくれた。

サニーが10年前にブラーフイー語で著した研究書が目の前に現れたのだ。筆者はただどしくも音読して、「死ぬ」という動詞の類語表現を扱ったページを解説してもらうことができた。

2.2. リアークト・サニーの研究成果

2.2.1. 「カヒング (死ぬ)」とその周辺

ラウザーター・ショーンダーリーという音を持つサニーの著作『語彙の発見と修正—ブラーフイー語の忘れられつつある語彙の研究試論』(図3) に収められている論考は、2003年から一年半にわたってブラーフイー語雑誌週刊『タワール tawar (岸壁)』に連載した自らの研究成果を世に問うものであった。

毎週三つから四つのブラーフイー語を選び、その語源や語法について考察する形で書き続けられていった。都市生活者の耳には聞こえてこない、すでに忘れられた古語や特殊用語をすくい上げて記録にとどめる作業からこの本は始まったという。古老や遊牧民を訪ねては言語調査を試みるなかで、ブラーフイー語文化の豊かさや深さを痛感したという。

実際この本を繰ってみると、既存のブラーフイー語語彙集のなかでは質量ともトップにランクされるブレイの語彙集 [Bray, Vol.II] にも掲載されていない単語についての言及がほとんどなのだ。20世紀初頭に語彙を集めたブレイの本で見つからない単語は、新しい借用語だと考えてよいと思い込んでいた筆者は肝を冷やした。

もちろん「死ぬ」を意味するカヒング kahing はブ

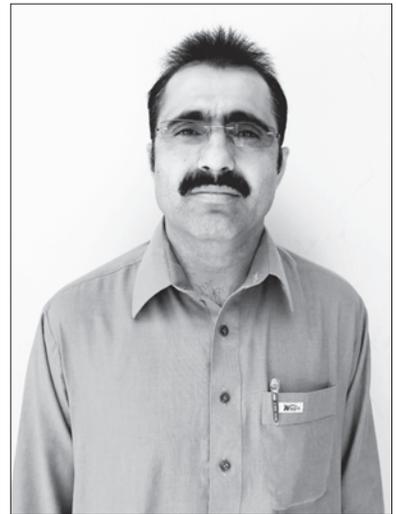


図2 リアークト・サニー博士

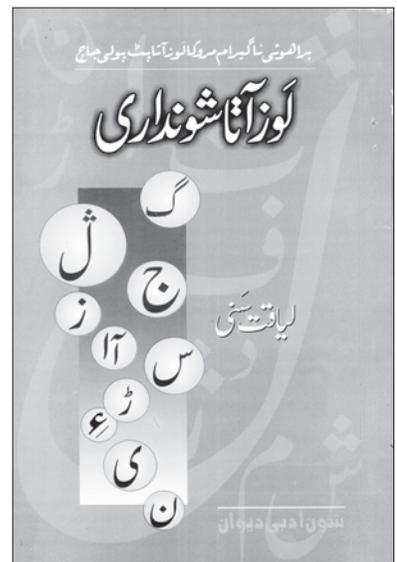


図3 『ラウザーター・ショーンダーリー』

レイ本 [Bray, Vol.II:153] にも掲載されている。意味は「死ぬ to die」と「衰える、静まる、弱まる to die down」の二種類が記されている。

kahing の現在語幹は kahe、過去語幹は kask、否定語幹 kas、原因語幹 (causal) kas となる。B4.と B7.で活用させると以下の形をとって現れてくる。

B4.現在形

一人称	kaheva	kahena	kaspara	kaspana
二人称	kahesa	kahere	kaspesa	kaspere
三人称	kahek	kahera	kaspak	kaspara

B7.過去形

一人称	kaskt	kaskn	kastavat	kastavan
二人称	kasks	kaskre	kastaves	kastavere
三人称	kask	kaskr	kastau	kastavas

サニーは、一般的に「死ぬ」を意味するこのカヒングを、①生きている者が現世において比喩表現として用いる場合と、②すでに死んだことが確認されている者に対して使う、二通りの使い方を指摘する。

前者①では、「私は死にそうだ (死ぬくらい苦しい)」の意味で、まだ実際の死を迎えていない条件で使われる。ブラーフイー語で、イー・カホーイー・ウトウ iy kahoi ut (I look I'm dying)となる。

後者②は、一般に死んでいることが分かっている条件の下に使われる。ただ、「死の原因」が副詞節として明らかにされていないカヒングの使い方は、礼儀にかなった敬意の表現とはならないという。死んだ時だけでは不十分であり、死んだ理由が添えられてはじめてフォーマルな表現として受け入れられるのだ。

サニーは例をあげる。[Sani,12]

1. paho tining an kask 彼・彼女は首を吊って亡くなった
2. gutto halling an kask 彼・彼女は窒息して亡くなった
3. langari an kask 彼・彼女は飢餓で亡くなった
4. bimar an kask 彼・彼女は病気で亡くなった
5. bijli an kask 彼・彼女は電気・感電・落雷で亡くなった

どの例文も名詞・不定詞+an kask の形をとっている。「an アーン」は奪格を作るときに用いられる後置詞で、動作の原因・手段・所・時を表す。したがって、～アーン・カスク～an kask は「～の理由によって／～の原因・手段で彼・彼女は死んだ」という意味になる。

ここで重要なことは、まさにこの「～アーン」を伴う副詞節の有無によって、文が形式に則った敬語となるか否かが識別されるということだ。ただの「死んだ」が「亡くなっ

た」に変換されるとき、ブラーフイー語動詞カヒングを使用する際には、死の理由を明らかにする副詞節が必要とされていたことが分かった。

日本語では、副詞節の有無ではなく動詞自体によって、敬語表現を適宜決定できる。つまり「死亡する」「死去する」「逝去する」「薨去する」「崩御する」の順に敬意が高まる選択肢が存在し、さらに「される」「なされる」との組み合わせで、より繊細な敬語形式を発揮している。述語の部分で敬語が施されているため、ブラーフイー語のカヒングのように死亡理由を添えて敬語を作る必要はない。

ここで最初の疑問点に立ち戻って考えると、学科長は、S1.では死亡理由も告げずにただ「死んだ」と答え、S2.ではM2.の質問に答える形で「二年前（に死んだ）」とだけ答えている。この後、筆者が死亡理由を尋ねなかったこともあり、二人ともその理由は言わずもがなだったこともあり、フォーマルな敬語表現を含んだ「死ぬ」をめぐる会話はここで果てている。

学科長が使ったカヒングの用法は、筆者との25年以上の親交密度に基づき、他者が誰もいない学科長室の中でプライベートな会話として発せられた、あえて敬語を必要としない間柄同士のフランクな表現だったと納得することができた。

2.2.2. カヒング以外の「死ぬ」の用法

サニーはさらに「死ぬ」を意味する他の動詞について言及する。

「カズィーヤト・カンニング kazyiat kanning⁽³⁾」は、「死ぬ」の表現の中で最上敬意を伴って用いられ、あらゆる種類の「死ぬ」の意味に用いられる。しかし特に、大惨事の際の事故死に対して使われている。カズィーヤトはアラビア語に由来するウルドゥー語カザー(qaza)において「裁定」「借材の返済」を意味する名詞である。イスラーム教の文脈で「死」そして「天命」をも意味することから、当該地でイスラーム教化が強化された18世紀中期以降の時期にブラーフイー語に取り入れられた可能性は無視できない。

Babu Abdul Rahman Kurd 9 aktubr 2003 na de kazyiat kare.

アブドゥル・レヘマーン・クルド氏が2003年8月9日に逝去された。

Amrat Murad kazyiat karene, aino 11 bajahga namaz janaza marek.

アムラト・ムラード女史が逝去された、本日11時に出棺の礼拝が行われる

これは明らかに死亡者に対して尊敬を込めた敬語表現であることがわかる。それに対して、単にカヒングを用いると死亡理由が述べられていてフォーマルではあっても、カズィーヤト・カンニング程の尊敬度はうかがえなくなる。

Jang-ati char bandagh kaskr. 戦闘で四人が死亡した

「カップング khapping⁽⁴⁾」は、プレイ本には記述が見られない、「病死する」の意味で本来用いられてきた動詞である。カヒングのフォーマル形用法の影響からか、「戦争・戦闘で jang-ati」や「空腹で bingun an」といった理由を表す副詞節をとって用いられることも時としてみられる。以下は「戦争・戦闘で」を用いた例である。

Ota char bandagh xado na jang-ati khappar.

彼の四人の仲間・手下は今年の戦闘で戦死した

「バーラーン・マンニング beran manning」も「死ぬ」を意味する。バーラーンは「荒れ果てた、衰弱・消耗した desolate, waste」そしてマンニングは「～になる become」である。あえていえば「こと切れる」「息を引き取る」に近い意味であろうか。政府や警察官をも含めた体制側の人間たちの死・殉死に際して、この用法は使われている。

Wana-ti panch bandagh beran mas.

ワナーの地で五人（の兵士・警官）が亡くなった

イディオムでも「死ぬ」を表す表現が多彩である。

「ジャーマエ・マターイフイング jamae mataifing⁽⁵⁾」とは直訳すれば「衣服を jamae 取り換える mataifing」である。これは、埋葬する際に衣服を死に装束に着替えさせることから生まれた慣用句であろう。

chiwaxt jamae matife 彼・彼女は何時死んだのか、

kulle jama mataifoi e 全て（の人間）は死ぬものである。

「ドゥニヤーエ・イッリング duniyae illing」「ドゥニヤーエ・ヤッラ・カンニング duniyae yala kanning」はともに、死亡理由が不明のまま告知された突然の死に際して使われる。直訳すれば、前者は「(あちらの) 世界へ duniyae 旅立つ・出発する illing」、後者は「(あちらの) 世界へ duniyae 解放する yala kanning」となる。「他界する」や「身罷る」のニュアンスが近いかもしれない。

dasa paro mas ki o duniyae illane.

彼・彼女が死んだと今知らされた

kane aino sama tamma ki ona pira duniyae yala karene.

彼・彼女のお祖父さんが他界されたことを、私は今日知らされたんだ

「カッリング・カップピング khalling⁽⁶⁾ khapping」は特殊な条件の下でのみ使用される絶滅危惧種動詞の一つであろう。

その条件とは、誕生から死亡まで自分の属する共同体の外へ出たことがなく、一生を村や遊牧の移動の中で暮らして亡くなった人に対してのみ捧げ使用することができるというものだ。もはやこの動詞の使用対象となる社会もその社会に住まう人間も、現代化と高齢者の減少によって見られなくなってしまうことは間違いない。

O neko insane assaka, khalla khappa kas e azar katau.

彼・彼女はずっと善良な人だった、逝ってしまった（けれど）誰にも迷惑すらかけなかった。

残念ながら筆者の知識不足で、この動詞に対する訳語が日本語ではみつからない。現地バローチスターンでも、もはやごく一部の限られた共同体内部で、特定の条件下でしか使用されない珍しい動詞である。サニーの収集と本への掲載でサンプルが残された動詞である。今後は現地を訪問するたびにその進退をブラーフイー人に訪ね続けてみたい動詞との出会いであった。

こうして一通りブラーフイー語動詞「死ぬ」の類語を見てきたので、かつて自分で翻訳したブラーフイー歌謡の中では、戦士の死の場面が歌われるときどんな言葉が使われていたのが気になってきた。

第3章 戦士の戦死が歌われる世界

3.1. ブラーフイー語の戦詩

18世紀中葉にブラーフイー部族連合がようやく成立し、バローチ部族も取り込んで、カラート Kalat を都とするバローチスターン・カラート藩王国が誕生する。部族連合の盟主はアフマドザイ・ブラーフイー部族が世襲した。

部族抗争に明け暮れたバローチ人、ブラーフイー人ではあったが、外敵から自分たちの自由や権利を守るときは、比較的結束して戦う傾向にあった。イラン人やアフガニスタン人との戦いは、まだ近隣同士の鏖迫り合いであったが、本当の意味で自由や権利を守るために異邦人と戦うのは、ポルトガル艦隊との制海権争い、そしてイギリス軍との戦いであった。さらには、イギリスが去った後に独立国家を宣言したバローチスターンにとって、パキスタンへの併合をめぐる現在まで民族主義闘争の火は消えていない。

戦いには民族主義的英雄が生まれる。彼らは、平常時には陰險な謀略家だったり、共同体が持て余す暴れ者だったりする。ところが民族共通の外敵が侵入したとき、バローチ民族の自由と財産を守るために自由戦士として勇ましく戦うのだ。その結果、体制側からは反乱軍の頭領や兵士として殺されることになる。

このとき重要なことは、平時の素行がどうだったにせよ、バローチ民族共通の部族慣習法、つまり掟であるリワージ *riwaj* に則って勇ましく戦ったかである。単純に勝ち負けの問題ではなく、バローチ人戦士としてブラーフイ人戦士として、正しく名誉ある戦い方をしたかによって評価が下されるのだ。

結果として敗れ、命を失った殉族戦士たちを詩人は讃えて書き残し、楽師がそれを歌にして民衆に伝え残す伝統が、いまなおブラーフイ人の中にはみられるのだ。

3.2. 永眠する戦士ミール・アリー・ドーストへの子守唄

ミール・アリー・ドースト *Mir Ali Dost* は、1850 年代にイギリス軍と戦って死んだ義賊の一人である。キリスト教徒であるイギリスに対して、異教徒と戦うイスラーム戦士ガーズイー *ghazi* として愛された。イスラームの信仰にもともとさほど積極的ではないバローチ民族ではあるが、この時代には「負けたらキリスト教徒に改宗させられる」という噂に恐怖して、イスラームに目覚めたものも多かったはずだ。

だが、ミール・アリー・ドーストも他のガーズイー戦士たちも、イスラームの自由よりもバローチ民族が自由でいられるために戦っていたのである。

子守唄 (ローリー *loli*) 形式の戦詩 (ジャンギー *jangi*) で表されたブラーフイー語の詩を見てみよう。[村山、2004:59-60]よりテキストを部分引用し一部改訳をほどこしてみる。

- | | |
|---|-------------------------|
| 1. lol kabo loli Mir Ali Doste | ねんねこ うたおう、ミール・アリー・ドーストへ |
| 2. ji o jan kena shahid Ali Doste | すべてを捧げん、シャヒード・アリー・ドーストへ |
| 3. lol kabo loli lumma na mare | ねんねこ ぼうや 母さんの ぼうや |
| 4. lumma ta pare shahid mare jwane | 母さんが言ったとき「戦ってお逝き」 |

まだ歌は延々と続くのだが、この詩の中で「死ぬ」という個所に注目する。

それは、4.の最後に現れるシャヒード・マレー・ジュワーネー *shahid mare jwane* ⁽⁷⁾ という個所である。直訳すると「シャヒードになるのはよいことだ」となる。

不定形「シャヒード・マンニング *shahid manning*」は「殉教者になる」を意味する。

シャヒードは「信仰、大義のために命を捧げること、その犠牲者」のことである。大義ある戦いにおいて、勇敢に戦い、死去した戦士に対してバローチ民族は「シャヒード」の尊称を冠して評価し、その勲功を語り継いできた。バロ



図4 「子守唄」を歌うブラーフイー語学科教員・学生

一チ民族の自由と尊厳のために戦って犠牲になることは、条文化された義務ではないが、彼らの遺伝子情報に漏れなく組み込まれた絶対的名誉の形であることは疑いない。

「クルバーン・マンニング qurban manning」は文字通り「犠牲になる」の意味ではあるが、この語の意味範囲はシャヒード・マンニングより広く、事故、災害や戦争で命を失うこと全般に対して用いられる。クルバーンの中でも、部族慣習法に則った名誉ある戦死を遂げたもののうち、氏素性に関係なくごく少数の人だけがシャヒードとして認知され、尊敬される文化がここにある。(図4)

3.3 アクバル・ハーン・ブグティーへの賛歌

最後に、ごく最近シャヒードの列に加わったナワーブ・アクバル・ハーン・ブグティー Nawab Akbar Khan Bugti (1927-2006) に対する賛歌の内容を考察してみたい。

ブグティーは、バローチスターン東部に領土をもつブグティー・バローチ部族の族長で、オックスフォード大学でも学んだ政治家であった。70年代初頭には、他のバローチ、ブラーフイー人との政治抗争の末、一時はバローチスターン州知事(1973-74)の座を射止めた。しかしすぐ失脚。その後はバローチスターン州首相(1989-90)を務めた。

州知事とはパキスタン政府によって任命される職種であり、州の住民の意向は反映されない地位である。パキスタン政府によるバローチ人による州政府解体と、彼のライバルであった州政府大臣たちの逮捕を受けて、州知事に就任したブグティーは、民意、特に女性たちから突き付けられた問題解決を無視した失策により辞職を余儀なくさせられる。この当時のブグティーは、パキスタンに魂を売った陰險な政治家、部族慣習法リワージを無視したバローチ民族の面汚し、「バローチ・クシュ(バローチ人殺し)」とまで非難されている。

しかし、晩年のブグティーは、自領で発生したパキスタン軍将校による女医レイプ事件もみ消し事件を発端として、民族主義的視点から体制側の横暴について世界に向けて発信し、武力闘争をはじめた。

パキスタン政府はブグティーをテロリストに認定し、ムシャッラフ大統領が育成したパキスタン軍特殊部隊を送り込む。山を転々と逃亡し、ゲリラ戦に徹するブグティーに対して幾度かの停戦交渉が行われるが、籠っていた洞窟が爆破されブグティーは死去する。それ以降、バローチスターン州では、反パキスタン・バローチ民族主義集団による武装蜂起が相次ぎ、今現在もお闘争が続いているのだ。

2006年8月26日、ブグティーはブグティー族のナワーブ(族長)からバローチ民族のシャヒードになった。バローチ民族だけではない。バローチスターン州に住むパシュトゥーン民族も、他州出身者も、ムシャッラフを非難し、ブグティーをシャヒードとして賛美し受け入れた。「ブグティーは、ズィーロー(零)からヒーローになった」と、人々は温かく彼のバローチスターンのシャヒード殿堂入りを許した。

筆者が州都クエッタを訪問した2008年3月、ブグティーを讃えるブラーフイー語の民族主義運動歌をみつけた。聞き起こしてテキストを掲載した拙文に再び訊ねてみたい。作

詞はアースィフ・ラーズ Asif Raz、作曲と歌がフサイン・アスィール Hussain Aseer、[村山、2009:103]の初訳を一部加筆修正して引用する。

1a. Akbar nana **mas** Bugti **shahid** matam balochistan-ati

我らのアクバル・ブグティーがシャヒードに、バローチスターンは悼み泣く

1b. Akela warna sher e hamo har dam balochistan-ati

独り戦う若き獅子 バローチスターンで永遠に

2a. lumma watan kin jan tena **qurban kare** da jan na

母なる故国にその命 捧げて逝ったその命

2b. kull dushman-ate darti na hairan kare da jan na

すべての敵を疾駆けで 恐れさせたるその命

ここでも「シャヒード・マンニング」(1a.)が使われ、動詞マンニングは三人称・単数・過去のマスmasの形をとっている。彼ブグティーは、バローチ民族だけでなくバローチスターンの人々にとっても、誇るべきシャヒードとなったことが歌われる。

もう一つ「死ぬ」意味を表す「クルバーン・カンニング qurban kanning」(2a.)が、動詞カンニングの三人称・単数・過去の活用形カレー kare とともに見られる。前述したクルバーン・マンニングが「犠牲になる」という自動詞であるのに対して、クルバーン・カンニングは「～を犠牲にする」という他動詞になる。

ブグティーは故国のために自ら喜んで命を捧げたのであって、不本意に犠牲者になってしまったのではない、と作詞者は訴えているのが動詞の選択から推察できる。

もちろん、シャヒード讃歌以外にも多数のブラーフイー語戦詩が存在し、それらの中には単純に「死んだ」kask という描写は存在する。これらは、流動する戦闘場面の中において戦闘結果の生死を叙事的に伝えるためであり、後世の人々による評価を徒に付与させない意図が感じられてならない。

おわりに

以上、三章にわたって筆者が関心を寄せるブラーフイー語とブラーフイー文化のポイントについて書き下してみた。

第一章では、ブラーフイー語の研究成果を、ブレイとエルフェンバインという新旧二人の代表者のテキストを比較しながら、疑問点と課題を指摘した。ブレイの著作の再検討も必要だが、特にエルフェンバインについては、彼のバローチスターン滞在時分の活動記録をさらに知ること、バローチ語とブラーフイー語という二人の妻、或いは愛人の養い方が明らかになる。

第二章では、バローチスターン大学文学部ブラーフイー語学科の旧知の教官の口を借り

て、ブラーフイー語動詞を一つ選び、その類義語的世界を覗く試みとした。「死ぬ」という動詞のさまざまな表現が、リアーカト・サニー氏の研究成果によって露わにされ、記述されたことによって忘却を逃れてきた事実に感動した。ブレイ本の語彙集とサニーの語彙集を突き合わせて、批判的な『ブラーフイー語辞典』作成課題が与えられた。

第三章では、第二章をうけて、口承伝承で民族の記録が伝えられてきた民族文化の粋であるブラーフイー語戦詩のなかに、「死ぬ」表現を探った。ブラーフイー語の民謡や叙事詩などは、民俗学愛好者が聞き取ったまま出版したブラーフイー語のテキストは多数存在するが、翻訳や分析が全く行われておらず、自身の怠慢を呪う現状にある。

筆者は、バローチスターン研究の中では、パシュトゥーン民族研究よりもバローチ民族研究のバトンを選んだ。バローチ民族研究の中では、バローチ人とバローチー語研究よりも、ブラーフイ人とブラーフイー語研究をとった。

しかし、成果を発表する時には、翻訳も資料もたくさんあるバローチー語世界を優先させてきた。バローチ民族研究というマイナー分野の中でも、まだ認知度が高いバローチー語世界に関する発表をし続けて地ならしとした。そして、さらにマイナーな大本命であるブラーフイ人とブラーフイー語研究の成果を発表する時節を待ってきたのだった。

筆者は、日本においてブラーフイ人とブラーフイー語文化のよりよき理解の助けとなるように、日本唯一のブラーフイー語専攻留学生として努力してゆく所存である。

— 注

- (1) 1.the treatment of Proto-Dravidian*k-, 2.the formation of the -o-future in verbs, 3.the interrogative pronoun Dravidian*ya-/e-. [Elfenbein, 439]
- (2) 短母音 [a,i,u]、長母音 [a,i,u,e,o]、二重母音 [ay,aw]
- (3) 過去語幹 kare カレー
- (4) 過去語幹 khappa カッパ
- (5) 過去語幹 mataife マターイフェ
- (6) 過去語幹 khalla カッラー
- (7) 動詞マンニングmanning (to become) 「～になる」の三人称単数・不確定未来形マレーmare

— 参考・引用文献

- Andronov, M. A. 1980 *The Brahui Language*. Nauka.
- Bray, Denys 1909 *The Brahui Language*, Vol.I & II. (reprint 1986)
- Elfenbein, Josef 1990 Brahui. *Encyclopaedia Iranica*, Vol.IV, pp.433-443. Routledge & Kegan Paul.
- Emeneau, M. B. 1962 *Brahui and Dravidian Comparative Grammar*.
- Sani, Liaqat 2005 *Lauz Ata Shondari*. (Promotion of words-A Study on the words being forgotten in Brahui Language), Shon Adabi Diwan.
- 家本太郎 2012 「ブラーフイー語」『新版南アジアを知る事典』p.706 平凡社
- 村山和之 2004 「バローチ民族の自由をかけた戦いとパキスタン支配」『現代パキスタン分析—民族・国民・国家』(編) 黒崎・子島・山根, pp.41-81. 岩波書店
- 2009 「バローチ民族の英雄と叙事詩」『和光大学表現学部紀要』09/2008, pp.87-106.